

入 選

便利の追求と水

令和七年二月、テレビのニュースで、岡山県の自然の豊かな町の浄水場から有害物質が検出されたと知った。水道水などの生活用水から、高濃度のPFAS（ペーファス、有機フッ素化合物）が検出されたようだ。

PFASとは、炭素とフッ素が化学結合した、地球上で最も強固な化学結合物質で、永遠の有機化合物、と呼ばれている。熱や紫外線、薬品などの刺激に影響されない。また界面活性性に優れていて、水や油を弾くことができる。この性質を利用して私たちの生活では様々な製品に使用されており、生活を便利にしてくれている。例えば防水性のアウトドア製品やスポーツウェア、フライパンなどの調理器具、風邪薬、化粧品、ファストフードの包装紙やお菓子の包装紙などだ。これらを目にしない日はないのではないだろうか。

しかし便利な反面、困ったことがある。このPFASは人間にとって有害で、発がん性があるそうだ。また種類は四千七百以上あり、自然界では分解されないのだ。そのため捨てられた製品や工場から排水された水などから、川や海や土壌に蓄積してしまう。環境省ホームページを調べたところ、PFASのうちPFOS及びPFOAについては輸入や製造を禁止しているが、食品群（魚介類、藻類、肉類、乳製品、卵製品、野菜製品、果実製品等）及び生物からの検出事例が報告されているそうだ。すでに川や海や土壌は汚染されつつあるということなのだろうか。

水は私たちの生活に欠かせないものだ。水がなければ草木や動物は死んでしまうし、私たちの食べ物はなくなってしまう。社会の授業で習ったように、昔は田畑にひく農業用水の奪い合いで村同士の争いもあったそうだ。現代の私たちにとっても生きるために水は必要で、綺麗な水はもっと大切だ。もし毎日当たり前に使っていたはずの水道から水が出てこなければ、飲み水だけでなく、私が部活で使った汗のしみ込んだタオルやシャツも洗濯ができず清潔を保てない。トイレもお風呂も使えなく

さいたま市立大原中学校 三年 大野 瑞季

なってしまう。そうすると色々なものがそのまま腐敗してしまったり汚染されてしまい、私たちの体に有害な菌などが蔓延してしまう。想像しただけでぞっとした。

厚生労働省は、浄水施設における水道水の水質管理を適切に行う観点から、PFOS及びPFOAを水質管理目標設定項目に位置づけ、合計値として暫定目標値五十ナノグラム／リットルを、令和二年四月一日に施行した。水質環境基準健康項目については、「水環境の汚染を通じ人の健康に影響を及ぼすおそれがあり、水質汚濁に関する施策を総合的かつ有効適切に講ずる必要があると認められる物質」を選定する、とされている。岡山県の水道では基準値をはるかに超える千四百ナノグラム／リットルが検出されたそうだ。

大切な水が私たちの便利を追求するせいで汚れてしまっていると感じた。開発が進んで便利なものが増えて生活が豊かになればなるほど川や海や土壌は汚れて自然環境が汚染されていく。矛盾を感じてしまった。綺麗な川や海や豊かな土壌を取り戻すために私達は便利だけではない、何かをしなくてはならないのではないか。調べるにつれて自分ができることはないのかと、とても焦りを感じた。

ひとまずゴミの分別から始めてみることにした。早速自宅で私や家族が食べた食品の容器、お菓子の包装紙を分別したところ、ごみ袋はすぐに満杯になった。一方、燃えるごみ用の袋は半分も埋まらなかった。やはりPFASは私たちの生活に欠かせない物なのだと再認識させられた。まずはできることから。私はこれからごみの分別や、物をリサイクルして大切な資源として使うよう心掛けていこうと思う。未来の私たちの健康で安全な生活と豊かな自然を守るために。